

東日本大震災を乗り越えて、
前に進もうとする三陸の人たちからの
メッセージを届けます。

海外に向けて発信

ミラー・アミアさん

伝えるために動く
それが私の役目です

陸前高田市海外広報ディレクター。それが、ミラー・アミアさんの肩書きである。昨年11月の任命以来、陸前高田と東京を往復しながら、海外メディアや大使館などに向けて精力的に情報発信を続けている。

国籍はアメリカだが、日本で生まれ育ったアミアさんにとって日本は「ふるさと」だ。大震災当日はアメリカにいたが、矢も楯もたまらず来日。海外支援団体のボランティア通訳として、陸前高田を含む気仙地域に来たのが縁となった。

今では、酒を酌み交わしながら、「じいちゃん、何て言ってるの、いい？」と問いかけることもあ

る。保育園に出向き、子どもたちと英語で遊ぶ。「地元の人たちが受け入れてくれたのは、すごいこと」と話す。

地元の人たちと交流を深めながら、「被災地の今」をつぶさに伝える。外国人が被災地に足を運ぶよう働きかけも行っている。実際に見てもらおうことで、その体験が海外に伝わると、50年先100年先へと続いていくと考えるからだ。

アミアさんはこの日、保育園でもらったという金メダルを胸に付けていた。「外国人だからできることを追いかける」というが、すつかり溶け込み、気仙の人になつているようだ。



大津波に耐えた高田松原の「奇跡の一本松」。アミアさんは、「一本松は希望です。希望は残したほうがいい。『見てろよ、俺は残ってやるからな』という、気仙魂がカッコいい」と話す。保存のための費用は「奇跡の一本松保存募金」で賄う計画だが、まだ目標額に達していない。今も多くの人の協力を求めている。

※「奇跡の一本松」は(財)日本ユースホステル協会所有。写真は2013年3月12日撮影。

陸前高田市役所
陸前高田市高田町鳴石42-5
<http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/>

